

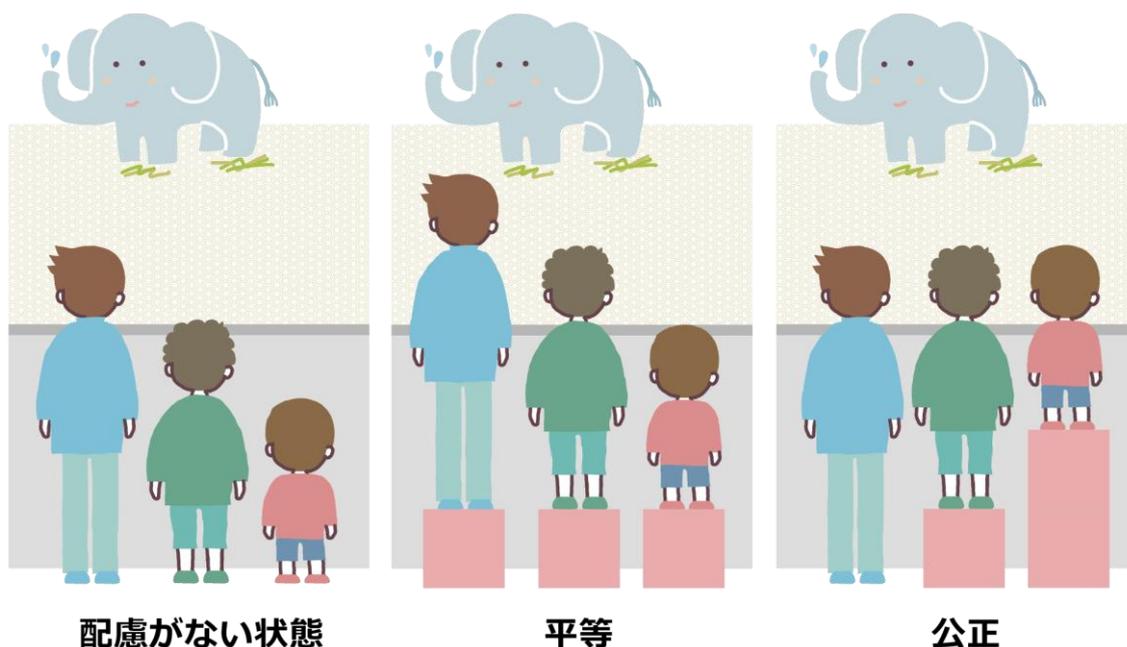


ほっとたんは

令和6年10月吉日

合理的配慮ってどういう意味??

先日、特別支援教育士資格認定協会のセミナーにて、「合理的配慮」ということについて改めてお話を聞く機会がありましたので、今日は「合理的配慮」についてお話しします。「合理的配慮」は、個々の子どもによって異なるものです。下の図を見てください。



みんながゾウを見るために、配慮をすることが支援です。

ここでの【合理的配慮】とは、左の絵のように【公正】になる場合を言います。

「配慮がない状態」では、見えない子がいるし、「平等」に支援したとしても、見えない子にとっては、支援が行き届いていないわけです。そこで、特別支援が必要なことを【合理的配慮】と言います。私たちは誰にでも「平等」に接することが良いと思いがちですが、本当の配慮とは、「公正」な特別支援ができることをいいます。

クラスの中に、【平等】という名で支援が行き届いていない子はいないでしょうか？

学校で行える合理的配慮を考えよう

学校で行える「合理的配慮」のポイントは2つです。

①「配慮を受ける本人にとって」合理的ということ

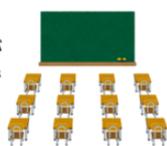
子どもが望んでいない配慮や子どもの力を発揮できないような過剰な配慮は該当しません。配慮を必要とする子どもにとって【必要かつ適当】であることが大切です。

②「配慮する側」にとって合理的であること

必要な配慮をしようとした時に、支援者に過度な負担がある場合や周囲の人たちに困難が生じる場合などは、合理的配慮の範疇を超えていると判断されます。お金や時間、環境などの面で難しさがある場合もあります。

そこで学校での【合理的配慮】は、「授業の中で生じる、困りごと・障壁を取り除くための調整や変更を受けることができる」ことを探していくと良いです。

参考例をいくつか挙げておきますので、合理的配慮について、子どもたちのために考えていけるといいですね。

テスト/授業の悩み	レベル1 先生や保護者に相談しつつ 自分できるものも多い	レベル2 医師の診断書などの正式な書類や 手続きが必要になることが多い
ひとりで受けてたい…	なるべく周りの人が目に入らない座席で試験を受ける 	別室でひとり、または少人数での受験を許可してもらう 
問題文が読みにくい…	■授業で使う資料を拡大コピーしておく ■音声教材を使って予習・復習をする 	テストのときに問題用紙の拡大や問題文の読み上げなどの対応をしてもらう 
テストのときにもっと時間がほしい…	順番に解かず、素早く答えられそうな問題から解いていく 	正式な申請をして、試験時間の延長をもらう 

合理的配慮は、一人一人の状態や教育的ニーズなどを踏まえて、学校と本人・保護者の合意の上で決定し、提供されるように調整していくものです。

お子さんにどのような困難さがあるのか、どのような配慮を必要とするのかは、2学期も成長ファイルの懇談会がありますので、その時にまた担任の先生や通級担当者とともに、一緒に考えていきましょう。